

## 令和3年度 第3回 富山県公共事業評価委員会の概要

- 1 日 時 令和3年11月2日(火) 14:30～16:02
- 2 場 所 県庁4階大会議室
- 3 出席者 中村委員(会長)、大藤委員、小泉委員、東出委員、分家委員、星川委員、吉川委員
- 4 審議内容

### 【議題1(令和3年度再評価対象事業における県対応案の再説明等)に対する主な意見】

- ・補足説明:国道471号利賀バイパスの事業効果について(土木部 市井次長)

#### ○国道471号利賀バイパスについて

(委員)

- ・今の説明によると、定性的な評価ということで3つの柱を立てて評価するということだが、これらはB/Cの算定には全く含まれていないと理解してよいか。  
⇒・そのとおり。含まれていない。

(委員)

- ・防災機能ランクによる評価というところで、防災ランクがBからAに上がるということがとても重要であり、適切な事業だと感じる。
- ・事業の効率性というところで、資料に記載している整備費用の中には建設工事の費用に加えて、これから長年にわたって維持管理をしていくことになる維持管理費が含まれているのか。  
⇒・ここでは建設費用のみで①現道拡幅、②道路事業単独でのバイパス整備、③利賀ダム工事用道路を利用したバイパス整備を比較している。いずれの場合も維持管理費はかかるもので、特に②と③においては作る物が同じであるため維持管理費は同額見込まれる。ただし、B/Cを算出する際には費用の中に維持管理費を考慮している。

(委員会意見の取りまとめ)

- ・県の対応方針案どおり、今年度の評価対象事業35件は全て「事業継続」とされた。
- ・会長から意見を付すことが提案され、了承された。
  - ・事業着手後に事業費の大幅な変更が生じないよう、事業着手時の概算事業費の精度を上げるよう努めること。
  - ・防災機能、環境影響の便益など、現状ではB/Cの算出上考慮されていない事業効果についても、県民生活への影響が大きく重要であることから、県民に分かりやすく説明できるよう、B/Cの算出上考慮することも含めて検討すること。

## 【議題2:次年度新規要望箇所等の事前説明】

### ・農林水産部事業(R4 新規4件)の説明 (南次長)

#### ○農地整備事業等の採択箇所について

(委員)

・今回説明のあった次年度新規要望箇所の4件の事業は、4件のうち3件が南砺市の事業であるが、今回は南砺地区を重点的に配分したという意図があるのか。

⇒・そういう意図があるものではなく、今回は偶然、次年度新規要望箇所から総事業費 10 億円以上のものを選定した結果、このようになったもの。新規採択要望については、(10 億円未満の事業も含め)4つの農林振興センター間の地域バランスも見ながら計画を立てている。

#### ○農地集積率の算定について

(委員)

・農地集積率の算定は、どのように行っているか。

⇒・田が10haあったとすると、そのうち9haを農業生産法人や認定農業者の方に集めた場合に、9/10 で90%になる、といった計算をしている。これまで個人でバラバラにやっていたものを法人に預ける、という形で集積を進めているもの。

(委員)

・農地整備事業で、大区画化すると集積率が上がるということと、効率が上がる、という2つの利点があると思うが、効率が上がることが分かるような指標はあるのか。

⇒・指標となりうるものとしては、今回資料はないが、作業時間について、どれくらいの規模のトラクターを使えばどれだけの時間効率が上がる、ということはあると思う。

(委員)

・そうした指標があれば、なお分かりやすい説明になったかと思う。

⇒・今後の資料作りに活かしていきたい。

(委員)

・効率化に関しては、営農経費の節減効果もあるのではないか。

⇒・基本的にはそうである。機械化による効率化に加え、水路の維持管理など、老朽化し手のかかるものから手のかからないものになる、という面も含めて効果算定をしている。

#### ○中山間地のB/Cの算定について

(委員)

・農地整備事業 粟原地区について、こういった中山間地であれば効率化しにくいいため、B/Cの数値も上がりにくいという面があるかと思う。その反面、その他の効果として「耕作放棄地の発生防止」が上げられている。これについては、B/Cの便益には算定されていないものと思うが、耕作放棄の発生防止は獣害の防止にもかなり大きな効果があると思う。これを金額的に算定することは難しいか。

⇒・耕作放棄地の発生防止については、金額換算は行っていない。農地整備事業により農地の

集積を図れば、今後も営農を続けて頂ける可能性が高まるので、こういった事業を入れて、集団で事業を進めていくことが、ひいては耕作放棄地の防止にも繋がるものと考えている。

(委員)

・集団化・大区画化したところでは耕作放棄地が減っている、ということは、調べれば(数字として)算出できると思うので、B(便益)として参入することができれば、中山間地の事業が進めやすくなるのではないかとと思う。

⇒・今後の事業に参考とさせて頂きたい。

## ○事業効果について

(委員)

・今回、令和3年度再評価についての委員会意見においても、B/C以外の要素も加えて評価することも大事ではないかという付帯意見をつけたので、その辺りも今後検討いただければと思う。難しいのは、様々な要素を何でも含めて算定してしまうと訳が分からなくなること。しっかりと説明責任が果たせる形で評価していただかないといけないし、我々も評価しないといけないと思っている。

・土木部事業(R4 新規3件、R3 新規1件)の説明 (市井次長)

## ○国道 304 号(南砺市荒木地内)について

(委員)

・狭い道路を拡幅する事業であり、用地買収と物件補償が生じると思う。B/Cが 1.2 ということだが、事業着手後に補償費が見込みより増加した場合にB/Cが1を切ることはないか。

⇒・この事業区間は沿道に家が張り付いており、多額の用地・補償の費用が発生する。このため、B/Cが 1.2 と低い値となっている。着手後に物件補償費が見込みより増加するのではないかという懸念については、第1回委員会においても同様のご意見をいただいた。そこで、補償費の算定にあたっては、個別の物件の寸法や用途などを見た上で、事業着手前であってもできる限り精度を高めて補償費を算出している。

(委員)

・B/C算定に交通事故減少による便益を考慮しているとのことだが、どのように算定しているのか。

⇒・交通事故減少便益は、国のB/Cのマニュアルにより、道路の整備が行われた場合と行われない場合の総事故損失の差を便益としている。事故損失額は国で定めた事故率というものに自動車の走行台数や延長等を掛けて算出している。具体的には、事故による人的損害額と物的損害額、事故渋滞による損失額を社会的損失として算出しており、当該道路事業の整備の有無により交通量に変化する道路網内の各径路で算出した値の合計を計上している。道路事業の便益は走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益の3つがあるが、交通事故減少便益が占める割合はかなり少ない。

○泉川(氷見市島尾外)について

(委員)

- ・令和3年度からの事業となっており、総事業費を算定した時期は昨年度だと思う。今、建設関係の資材や人件費がどんどん上昇しているが、それらを考慮した総事業費となっているか。
- ⇒・今回示した総事業費 14.2 億円は今年度の直近のデータで算定した金額である。

○坪野川(富山市婦中町速星)について

(委員)

- ・事業の投資効果の「人命等の人的被害の軽減」は、具体的にどのようなものか。
- ⇒・水害に巻き込まれて人が負傷されたり亡くられたりということがあるが、河川の整備によってそういうことから免れることができるということ。数値化が困難なため、その他の効果として示している。

(以上)